

# あびの文化

プロジェクト報告会&懇親会を  
開催します

(既発行150号会報記事の修正)  
日時 十月三十一日(土)午後1時~4時半  
会場 けやきプラザ9階ホール  
その他詳細は前会報150号参照。

なお、今回のプロジェクト報告会のお知らせについては従来のように改めて「往復はがき」での案内は致しませんので、「出席いただける方は次に示す方法にてご連絡ください。十月二十五日(日)までにお願います。

電話&FAX 04(7182)0861 美崎  
メール [mss\\_misaki@yahoo.co.jp](mailto:mss_misaki@yahoo.co.jp)  
(mss\_misaki\_@hotmail.com)

発行人 美崎 大洋  
我孫子市 高野山  
250-23  
04(7182)  
0861

プロジェクト報告会&懇親会を  
開催します

(既発行150号会報記事の修正)

日時 十月三十一日(土)午後1時~4時半

会場 けやきプラザ9階ホール

その他詳細は前会報150号参照。

なお、今回のプロジェクト報告会のお知らせについては従来のように改めて「往復はがき」での案内は致しませんので、「出席いただける方は次に示す方法にてご連絡ください。十月二十五日(日)までにお願います。

電話&FAX 04(7182)0861 美崎

メール [mss\\_misaki@yahoo.co.jp](mailto:mss_misaki@yahoo.co.jp)

(mss\_misaki\_@hotmail.com)

我孫子市民活動メッセ(9月26~27日)

出展の報告

「我孫子に來た白樺派の人々―その絆―」  
村上智雅子

一、はじめに

昨年の市民活動メッセの折、「これだけ多くの展示があるのに、なぜ白樺派を扱ったものがないのか。我孫子市民と子供達のために是非白樺派の展示をやって欲しい」という一市民の声がありました。また、文化を守る会の中でも、そろそろ白樺派という声もあり、内外からの要請によりこの展示が実現。ただ白樺派だけではなく、地域に密着した展示をということ、「我孫子に來た白樺派の人々―その絆―」という題名に決定しました。本来、柳宗悦から始まることを、嘉納治五郎、ひいては飯泉喜雄の鉄道誘致から始めることになり、この広い観点に立った図式は、当然白樺派は何故我孫子に來たかという問題を解く鍵ともなりま

二、絆が絆を呼んで

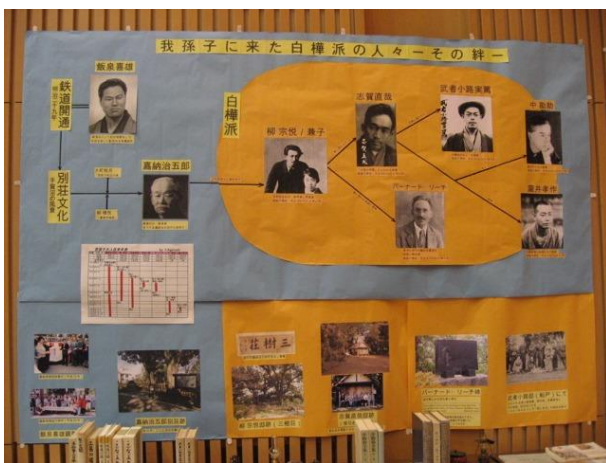
古くから、我孫子は手賀沼と利根川に挟まれた水明・景勝の地でしたが、全国的に知られるようになるにはまだ長い道のりがありました。明治二十四年には柳宗悦の父であり海軍水路局長であった檜悦が「鳧雁狩猟説(カモカリシユリヨウセツ)で手賀沼の地形や鳥類の生態を纏めています(竹下賢治氏調査)。また美文調の紀行文で知られた大町桂月は「東京遊行記」で「我孫子附近の勝」と題して手賀沼の風光の良さを紹介し、これによつて我孫子は一部の人々に名勝の地として名を馳せるようになりました。(越岡禮子さん調査)

それに加え明治二十九年には「鉄道なくして町の発展なし」と提唱した飯泉喜雄の献身的な誘致活動により、我孫子駅が開設されます。すると氏の言葉通り町は発展し、都心から一時間十分という便利さから別荘地としての道も開かれました。四十年には葉問屋島田九兵衛がいち早く子の神に別荘を持ち、四十四年に嘉納治五郎が天神山に別荘を構えました。嘉納が我孫子の文人別荘住人の第一号といえましよう。

我孫子の

白樺派來住

については、嘉納から始まった」と提言したのが故揖西(カジニシ)雄介氏でありました。嘉納がまず兼子と結婚して間もない甥の柳宗悦を呼び、柳が志賀直哉を呼び、志賀が武者小路を呼び、ま



たりーちも柳に誘われ、中勘助、滝井孝作も志賀を慕って住まう。

この絆が絆を呼び、まるで磁石に吸い寄せられたように我孫子に文学と芸術と友好を求めて人々が集いました。我孫子には、やはり白樺文化村というに相応しい磁場があり、結婚間もない彼らがここで家庭を築き、再生の力を得て、思想家、作家、陶芸家として自分に相応しい方向と生きかたを定め、新しい土地に旅立つて行きま



三、展示を終えて  
この明治末から大正十年代にいたるまでの白樺派の文人たちの営みと絆を、手賀沼の青色と白樺の樺色の模造紙で、縦一メートル、横二、五メートルのスペースに盛り込んだのが、今回の展示でした。ホールに入ると遠くからもすぐ目に付き、とても好評でした。来訪者は農学者の遠藤織太郎氏を皮切りに、星野市長の親族のお孫さん達、青木副市長も來られ、或る人は歓談し、或る小学生は熱心に質問し、或るご夫人は椅子に坐つて展示の白樺関連の書籍を読むという、時としてサロンのようでもありました。

なんとといっても注目を浴びたのは、かなりのものを盛り込みながらも分かりやすく見事に図案化された相関図で、制作したのは展示ベテランの伊藤氏。あれこれ提言したのが越岡さんと私でした。センスの良いビデオ紹介は佐々木氏と美崎氏。当日の丁寧なサポートをして下さったのは飯高さんと牧田氏でし

た。

また、この日同時開催のフォーラムで「まち歩きで我孫子の魅力発見」の白樺派文学散歩のガイド役を果たしたのが博識な我孫子の語り部の越岡さんとガイド初デブユーで猛勉強した藤井氏でした。また、川巡りでは斉藤氏と佐藤さんが世話役となり、好天の手賀沼遊覧を盛り上げ、日曜日の文化を守る会本来の史跡文学散歩では、ベテランの越岡さんのガイドで二十三名の参加を得て、有意義な取手巡りを楽しみました。

九月二十六日(土)、二十七日(日)の両日、市の「我孫子のこれからフォーラム」の白樺派展示と市民の「あびこ市民活動メッセ」の同時開催と美手連の「川巡り散歩」、そして文化を守る会の史跡文学散歩「取手宿を訪ねて」と四つの行事が重なる中で、殆役員全員参加で役割を果たしました。各自の努力と才能を存分に開花させた有意義な二日間。皆さんの熱いお働きに、心から感謝いたします。

### あびこだより 7号 6号

幕末の密航留学生の足跡を訪ねる……若き志士たちが築いた日英交流の歴史

伊藤一男

以前、「放談くらぶ」において、激動の幕末期にイギリスへ密航留学を企てた志士たちのお話をしたことがある。彼らの名は井上馨、遠藤謹助、山尾庸三、伊藤博文、そして井上勝。いわゆる「長州ファイブ」と呼ばれた若き志士たちである。幕府が締結した不平等条約の破棄と強硬な攘夷を唱える急先鋒が長州藩であったが、攘夷の真の目的は対等の関係を前提とした開国であった。同じ島国のイギリスが海軍力で世界をリードしているではないか。「その背景を学べ!」「学問や技術を会得し、生き残る器械となつて帰つて来い!」長州藩主の毛利敬親もこれを容認した。

長州藩士五名が秘かに横浜港を発つたのは一八六三年六月のことであり、上海経由で約四ヶ月かけてようやくロンドンに着いた。彼らを受け入れたのはロンドン大学の化学の教授・ウィリアムソン博士であった。朝夕は博士宅で算術や英語の勉強、昼間はロンドン大学の聴講生となり、化学分析実習なども行ったという。また合間には国会議事堂、大英博物館、銀行、上下水道の見学をしたが、彼らの驚きと感嘆の大きさは想像に難くない。

彼らは留学先で数多くの困難と闘いながら、努力して西洋文明を吸収し、帰国後は明治維新のために近代国家の礎となる社会制度構築に貢献した。

しかしながら、同じ日本の近代化に尽くすために志を立ててイギリスに渡り、日夜勉強に励んだにもかかわらず、異国で不幸にも病魔に襲われて客死し、後世に何の貢献もできずにひっそりと世に埋もれた志士たちもいた。

そのなかの一人、長州藩の藩軍艦「癸亥(きがい)」の艦長であった山崎小三郎は、長州ファイブの渡英二年後にイギリスに渡ったが、ロンドンの厳しい寒さのなか、疲労と栄養失調のため病床に伏す身となった。この窮状を知ったウィリアムソン教授は山崎を自宅に引き取り、同夫人が手厚い看病を施したが、ついに帰らぬ人となった。享年二十二。死因は結核であった。彼の遺骸は、ウィリアムソン教授の計らいでロンドン郊外のブルックウツド墓地に埋葬され、葬儀には当時イギリスに留学中の長州藩士および薩摩藩士の十二名が出席した。同墓地には山崎小三郎のほか、幕末から明治維新にかけて、国のため重い使命を帯びて渡英してきたが、不幸にして異国で倒れた三名の墓もひっそりと寄り添うように建てられている。しかし、遠く離れた祖国日本では、彼らの墓のことは長らく忘れられていたが、一九九一年、これら四名の墓碑が発見され、一九九八年、祖国のために命を捧げた青年たちを讃える記念碑が有志の手によって設立された。

その後、二〇一三年、国境を越えた誠意と善意の無償の愛を捧げてくれたウィリアムソン教授夫妻

を顕彰する厳かな式典が日英両国関係者によって執り行われた。

### イギリス訪問

百五十年以上の遠い昔、日英交流の絆を築いてくれた幕末の若き志士たちの足跡を訪ねるべく、私は今年の六月、大学時代の友だちとイギリスを訪れた。われわれの巡礼の旅はロンドン郊外のブルックウツド墓地に眠る日本の青年たちおよびウィリアムソン夫妻の墓と顕彰碑に参拝することから始まり、翌日はロンドン大学を訪れ、長州藩士と薩摩藩士留学生の記念碑などを見学した。次いで、ロンドンからスコットランドのグラスゴーまで、果てしなく続く緑の牧場を眺めながら快適な列車の旅を楽しんだ。グラスゴーでは長州藩士・山尾庸三が働いていた造船所の跡地や夜間大学(現在のストラスクライド大学)などを訪れた。今回は往時の若き志士たちの心意気を偲び、客死した志士たちを追悼する旅であった。

……  
帰りの飛行機のなかで微睡みながらウィリアムソン夫妻のことを思い巡らしていた。夫妻が国境、人種、文化の違いを乗り越えて異国の若い留学生にひたむきに教育を施し、誠意と善意の無償の愛を注いでくれたのは、もともと欧米人にそなわった遺伝子とでもいうのであろうか? 翻つて日本人はどうか? 明治維新以来、ウィリアムソンのような博愛主義に基づいて異国の人々に尽くした人は果たしていたのか? ……いた、いた。思い出した、我孫子ゆかりの嘉納治五郎もその一人であることを!

実は、八年程前、今は亡き榎西雄介(元当会役員)さんから、嘉納治五郎が日清戦争のあと清国からの要請に応じて多くの留学生の世話をし、しかも清国人を敵視したり見下したりせず、相手に対等の人と看做すことを教育方針として徹底させたことなどを教わった。

ウィリアムソンと嘉納治五郎とは、洋の東西を隔てていても、一脈相通じる包容力の大きい教育者ではないだろうか！機会があれば、ぜひこの点にも触れてみたい。(完)

講演会は左記

日時 12月5日(土) 14時～16時

会場 我孫子北近隣センター(並木)第3会議室

日時・会場以外は前会報150号参照

## 第119回 史跡文学散歩

「取手宿を訪ねる」

牧田宏恭

9月27日(日)午前9時30分、取手駅東口に降り立った今回の散歩参加者23名(会員12名・非会員11名)は、女性が12名で男性を1名上回った。前日までの悪天候と打って変わって、好天に恵まれた取手駅東口前で本日の散歩のガイド役を務める、当会副会長の越岡禮子氏より、「取手」の紹介と凡そコースと概要の案内があった。

「取手」は、今なお「旧水戸道中」沿いに残る本陣町屋、そして「新四国相馬霊場88ヶ所に指定の神社・仏閣等の歴史文化資産が数多く立地している町(街)」である。余談だが取手が昭和45年の市制施行と一致しており、川を挟んだ隣接都市として親しみを感じる。

コースは、最初の訪問先の臨濟宗妙心寺派の古刹「長禅寺」→旧水戸道中沿いの古い街並みに並ぶ新六本店(漬物屋)、田中商店(酒蔵)、斜向かいの田丸屋(着物・帯)→旧取手宿本陣(染野家住宅)→小堀(おおほり)の渡し付近の利根川土手→八坂神社→浄土宗取手山念佛院→本多作左衛門重次の墓を巡り現地、12時30分過ぎ解散の、「昔も今も取手の要衝の地」取手東南地域を巡る3時間の散歩となった。

「主な訪問先」と「取手ゆかりの人」について以下に紹介する。

### 1. 主な訪問先

#### (1) 長禅寺

長禅寺は臨濟宗妙心寺派の古刹、京都妙心寺の末寺で承平元年(西暦931年)に、平将門が勅願所として創建と伝えられている。本尊は延命地藏尊。慶安2年(1649)將軍徳川家光寺領5石3斗を賜る朱印状の交付を受け以後明治維新まで歴代將軍から朱印状を受けている。「本堂」、「取手大師(霊山堂)」、「三世堂」からなる。

境内正面の「三世堂」は「さざれ堂」とも呼ばれ外観が2層、内部は3層となっていて、1層に坂東33ヶ所、2層に秩父34ヶ所、3層に西国33ヶ所の観音札所の各本尊の写しを安置、合計100体の観音像があることから、「百観音堂」と呼ばれている。また取手七福神のひとつの大黒天も安置され、「1001お賽銭の場」にされているほか、観光音禪師が開基の「新四国相馬霊場88ヶ所」の第1、第5、第88番札所にもなっている。

弘法大師の縁日(毎月21日)は参詣人で賑わっている。また、茨城百景、取手八景に選ばれている。

(境内外にある主な石碑等)——設置時期順不同

蛇原萬吉(関東鉄道開通に貢献)、小林一茶、高村

光太郎、小川芋銭

#### (2) 旧取手宿本陣(染野家住宅)

取手宿は江戸時代初期に水戸道中が整備されると、利根川の渡船場(小堀の渡し)に隣接する重要な宿場として発展。染野家は代々の取手宿名主であり、貞享4年(1687)水戸徳川家より本陣を命ぜられた。現在の母屋は、寛政6年に焼失、翌年復興した建屋である。水戸藩9代藩主の徳川斉昭が2回に亘りこの本陣に休憩(天保5年・1834)または宿泊(天保11年・1840)しているが、そのとき詠まれた歌の掛け軸が飾られており、また天保11年に詠まれた歌の1首が歌碑として、本陣庭に設置されている。

歌碑に「指て行 さほのとりの 渡し舟 おもふかたへは とくつきにけり」とある。

#### (3) 小堀の渡し

昔、取手付近で利根川は南に大きく蛇行していたが、

明治末から大正初めにかけて、国が流れを直線状に変え、取手側の井野村小堀地区は川の南側に分断された(我孫子側に残る取手)。この渡しは、不便解消のため取手地区住民が運航開始したもの。「旧水戸道中」の嘗ての「取手の渡し」の風情を受け継いでいる。昔の川は、今「古利根沼」として、名残を残している。

#### (4) 八坂神社

当神社は、寛

永3年(162

6) 創建、御祭

神は素盞鳴命

(スサノウノミコト)、拝殿は天

保3年(183

2) の建築、本

殿は明治39

年(1906)の建

築であり、本

殿の木彫刻が有

名(後藤桂林・

保之助などの

名)。例大祭に

渡御する御輿

は、大きさ・重

量が関東一と

云われている。

#### (5) 取手山念佛院

浄土宗の寺で寛永4年(1627) 照堂了学が開山。

「新四国相馬霊場88ヶ所」のひとつ、第2番札所。

幕末の歌人「澤近嶺(さわちかね)」通称「油屋与兵衛」の入った墓が有り、墓の台石に「油与」とある。澤近嶺は現在の取手に居を構え、文人「村田春海」から歌文を学ぶことにより、春海門下の3傑と評価されていた。3度に及ぶ取手宿の大火に遭い、家財・歌文・蔵書を焼失、回顧を込めて随筆「春夢独談」を著作、そこには追憶と村田春海への畏敬が込められていた。

境内に「澤近嶺先生碑」が建てられている。また、江戸時代の念仏行者「徳本上人」の書かれた「徳本文



字」は独特の字体であるが、その字体で「南無阿弥陀仏」と書かれた石碑(照明塔に使われていた?)が置かれている。

(6)念佛院境内での越岡氏からの話

長谷川伸作戯曲「一本刀土俵入り」。水戸街道道中の宿場、取手(作者は「とつてよんで」の裏通りにある旅籠の「安孫子屋」の店先にふらつく足取りで通りかかったのが、主人公の「駒方茂兵衛(一文無しの腹を空かした相撲取り)。茂兵衛は親方から見放され江戸に戻る途中、安孫子屋の前を通りかかったとき、安孫子屋の酌婦「お蔭」が、茂兵衛の話聞き、肌着など色々となげ励ます。――物語は10年後に再び、お蔭への恩返ししの気持ち伝えに取手に戻り―と続くが、本来この物語の本当の舞台は、三州(愛知県田原)の木戸屋という宿屋であったが、「そのままの家が、取手の旅籠(安孫子屋)にあつたのは、遇合の奇は妙である」と、長谷川伸が後に作品「生きてゐる小説」で語つてゐること。「一本刀土俵入り」は歌舞伎、映画等多く演じられてゐる。本日は訪問しなかつた真言宗「光明寺」(取手・桑原)には、「長谷川伸の歌碑」と「一本刀土俵入りの碑」があるとのこと。

(7)本多作左衛門重次の墓

重次は、三河生まれ、松平清康、後には徳川家康に仕え、上総国古井戸、その後下総国井野村に領地を与えられ、この地(取手)に住み着いた。重次は家康、秀吉にも遠慮なく物申す人物であり「鬼作左」と呼ばれた。文禄5年(慶長元年:1596)病没。「一筆啓上火の用心お仙泣かすな馬肥やせ」の妻宛てた手紙として有名。「お仙」とは長男「仙千代」のこと、後の「本多飛騨守成重」のこと。日本一短い手紙といわれる。菩提寺は青柳にある「光明山本願寺」。

本日の史跡文学散歩は、此処にて終了。時刻も12時30分をまわつてゐた。現地解散となる。

ガイドを務められた越岡氏には、詳しくまたわかりやすく説明していただき深く感謝したい。

なお、本日最初の訪問先の長禅寺境内にて、「取手

ゆかりの人々」についても、越岡氏から紹介と説明があつた。本文で触れた人物以外を中心に次の2項に取り上げた。

2. 取手ゆかりの人々

主な人物は左記。(順不同)

(1) 小林一茶

宝暦13年(1763)〜文政10年(1827) 守谷、布川地域に頻繁に来訪。

「下総の四国廻りや閑古鳥」の句碑が長禅寺にある。この句は新四国相馬霊場88ヶ所廻りのことを詠んだもので、小川芋銭の書に拠る。

(2) 広瀬誠一郎

天保8年(1837)〜明治23年(1890)

北相馬郡長時代は治水事業などに力を尽くす。

(3) 観音光音

宝永8年(1712)〜天明3年(1783) 長禅寺「観音堂」の再興に力を尽くす。出家し「光音」と号す。新四国相馬霊場88ヶ所を開く。

(4) 小川芋銭

慶応4年(1868)〜昭和13年(1938) 日本画家、牛久に生まれる。独特の画風で有名。河童の画は有名。

(5) 高村光太郎

明治16年(1883)〜昭和31年(1956) 妻(智恵子)との恋から結婚、そして智恵子の闘病生活を歌つた「智恵子抄」は有名。光太郎は何度か取手を訪ねており、「利根川の美しさは空間の美である」との名言を残している。

ほかにも、「正岡子規:歌人・俳人」、「平塚らいてう:女性運動家」、「菊池幽芳」、「坂口安吾」がある。是非触れておきたい人に「坂西志保:国際交流・文化活動・評論家」がいる。「坂西」は我孫子に住んでいた時期(昭和20年〜24年)、GHQの仕事のため、我孫子からの東京への通勤時に常磐線利用していたが、未電化区間の常磐線の松戸―我孫子取手間の電化のため、昭和22年(1947)にGHQに地元「電化促進連盟」常磐線通勤・通学者連盟」と共に陳情、そ

の運動が功を奏し、同24年(1949)に実現させ取手までの電車運転が始まった。その功績は取手住民からも大いに称えられた。

今後の行事予定

□プロジェクト報告会&懇親会

日時・場所(詳細:1ページ参照)

□プロジェクト

◆我孫子市の巨木・名木を訪ねる会

日時 11月12日(木) 湖北駅9時00分集合

湖北駅北口↓正泉寺↓白泉寺↓八幡の井戸↓

中峠上地区庚申塔群↓法岩院↓古利根沼↓波除

不動↓芝原城跡↓自然観察の森↓順道塚↓足尾

山神社↓中峠亀田谷公園↓解散

◆第120回史跡文学散歩

日時 11月29日(日) 我孫子駅9時00分集合

詳細は前会報(150号参照)

□放談くらぶ

◆幕末の密航留学生の足跡を訪ねる

若き志士たちが築いた日英交流の歴史

日時・場所 (詳細:2,3ページ参照)

□その他

◆役員会のお知らせ

日時 11月1日(日) 13時30分〜16時

場所 けやきプラザ10階 大会議室

編集後記

前150号会報にて、行事日程に一部誤記がありました。内容は1頁に掲載しました。お詫び申し上げます。更に前号に掲載し切れない状況になり本号を臨時号151号として発行しました。さて、散歩やウォーキングに最適な気候になりました。皆さん、外気を多めに吸って活動し、太り過ぎない程度に食欲も満たしましょう。当会の史跡文学散歩や巨木・名木探訪は、この希望を満たしてください。(牧田)